

所沢市立美原中学校



令和6年度 第14号

3月14日(金)



学校だより No 14

学校教育目標

- ・進んで学ぶ生徒(知)
- ・心豊かな生徒(徳)
- ・たくましい生徒(体)

第49回 卒業証書授与式 式辞より

【前略】ご卒業おめでとうございます。【途中略】

さて、初めに皆さんと過ごした3年間について触れます。この3年間を正直にお話しをすると、その間、私が立てた計画の数々は、数えきれないほど頓挫しています。しかし、皆さんと過ごす中で、頓挫するたびに私の志は、ますます大きくなっていきました。この源は、この様々な障害を乗り越えた後の世界が鮮やかに想像できるからです。



このことは、卒業生の皆さんに、しっかりとあてはまります。コロナの感染症に対する大きな施策が解除され、毎日の日常が簡単に戻ると言われましたが、そんな簡単なことではなかったのです。確かに制限されない日常が戻りましたが、その日常の経験を積んでいない生徒がそこには、いたのです。【途中略】

そんな皆さんの中学校のスタートは、やはり容易なものでは、ありませんでした。小学校時にコロナで学校生活から得るはずの経験を閉ざされ中学校生活をスタートした皆さんは、様々なことに翻弄され、毎日のように多くの課題が私に報告されました。職員一同、毎日その対応したのを今でもよく覚えています。

私は、皆さんが美原中学校の50周年の記念すべき卒業生であることは、入学当時から承知していました。そして、皆さんなら必ずや成長し50周年の大きな節目に最上級生として3年生を勤め上げると信じ、様々なチャレンジをしたのです。そして、今日この日まで過ごしてきました。

今の皆さんは、私の想像した世界より、更に彩をもって美原中学校の3年間で、本当に大きく成長しました。

まずは、大きな経験の一、制服の改定です。生徒の意見を全面に出した取り組みです。【途中略】毎日様々なことがあるからこそ、生徒に責任を持って取り組ませ、教え導く取り組みをしたのです。そのような中で大人や専門家の中に入って皆さんは、しっかりとした意見を携え、生徒の意見を反映させながら制服を作成し大きく成長していきました。生徒会の選挙の時にもお話しましたが、民主主義は、時間がかかるのです。皆さんは、この制服を着ることは、ありません。しかし皆さんが行ってきたことは、長く美原中学校の歴史に残ります。「人のために成すことの楽しさ」を皆さんとともに、私も感じることができ、本当にやりがいのある楽しい時を過ごしました。

今年の学校行事では、暑さ対策など、生徒にとってより良い環境を考え、美原祭と体育祭の日程を入れ替えて実施しました。美原祭では、成長著しい1・2年生の前で、3年生に強い緊張感が押し寄せる中、皆さんの取り組みが始まりました。大人の声に近づいた皆さんは、圧倒的な完成度と歌声で立派に3年生としての取り組みができたと思っています。ですから、皆さんなら必ず

できると信じていた私は、最後に全体合唱をやり直す機会を申し出たのです。あの時の皆さんは、やはり、しっかりと期待に応えてくれました。「ありがとう。」

次は、体育祭です。市内の多くの学校で様々な理由で短縮・簡略化されていく中で、美原中学校では、今年も一日の完全実施を行いました。3年生の団長を中心に上級生が下級生を導き、吹奏楽部の演奏とともに、しっかりとした入場行進から始まりました。各種目では、若者らしい、はつらつとした取り組みと運営面でも、責任感を持って係や担当をこなし、人として大きく成長した姿を見せることができました。

また、各部活動の大会では、多くの部活動の応援に行かせていただきました。私は、勝手に皆さんと一緒に取り組んでいるような気がして立場を忘れて応援してしまいましたが、その中でも安心して応援できたのは、皆さんが緊張した取り組みの中でも、私に対して礼節を忘れず私を受け入れてくれたからです。「本当にありがとう」

私にとって、皆さんとの3年間を振り返ればこの時間では、語りつくせないほどです。

皆さんは、一つ一つ丁寧に経験を積み、最上級生の役割を果たし、伝統をしっかりと繋げることができました。どれをとっても皆さんの記憶に残すべき貴重な青春の一ページです。

ここで改めて、このような経験を積んだ卒業生にお話しします。それは、中学校生活で多くの人が味わった「楽しさ」と表裏した「苦悩」についてです。皆さんは、この三年間で人間関係など事あるごとに、つまずき転んでも、人に思いを伝えられず、大声で叫んでも「信じられる大人を」見つけられずにやりきれない思いを抱えたこともあったはずです。人にやさしくしてもらえず、涙を流すことも、きっとあったでしょう。それでも私は、その厳しい経験も忘れないでほしいのです。何故なら、その経験自体が貴重だからです。順風満帆な人生など誰にもないのです。それこそが「生きる」ということなのです。皆さんがその経験をバネに苦悩の大きな壁を本気で乗り越えようとした時、「自分は、頑張っているんだ、頑張ったんだ」と自分自身が思える瞬間、それこそ皆さんが、輝いている確かな瞬間なのです。それは、誰も知らなくても、誰も認めてくれなくても、何気なく過ごす平凡に思える毎日の中でも、皆さん自身だけが知りえる真実なのです。そこには、きっと「本気笑顔」があったはずです。他の誰もが見えない、唯一無二の「自分しか知らない価値ある中学校生活」です。忘れないでください。

保護者の皆様にお話しします。ここで義務教育を無事修了しましたことお慶び申し上げます。また、中学校のご卒業おめでとうございます。【途中略】

私は、美原中学校で学んだ生徒が、「他人と違う自分の良さ」を認め、他人と共に幸せになっていくような社会の担い手となってもらいたいと強く願っています。ですから生徒達には、「人のために生きる幸せ」を感じることができる「信じられる大人」となり、次世代の「子どもを支える大人」になってもらいたいという夢を持ちながら、生徒と向きあってきたつもりです。【途中略】美原中学校の卒業生全員が信じられる自分となり、豊かな人生を歩まれることを心より願い応援しています！

最後に私から卒業生に、唄「正解」の歌詞を使って伝えます。

「答え合わせの時に私は、いない。」
「だから、採点基準は、あなたのこれからの人生」
「よーい、はじめ」

令和7年3月14日
所沢市立美原中学校長 吉田 和生

